

# 刀 林

題字 故前田和二郎名誉教授  
発行所 東京都新宿区信濃町 35  
慶應義塾大学医学部  
外科学教室同窓会(刀林会)  
発行人 吉野肇一

## 国際親善総合病院 院長就任



国際親善総合病院 院長  
安藤 暢敏 (50回)

国際親善総合病院は横浜市の西の外れ、泉区西が岡の丘陵地帯の住宅地にある病床数287床の急性期病院です。経営母体は社会福祉法人で、特養2施設と老健1施設を併せ持ち、病院を中心に法人ミッションを遂行しています。病院名

称にふさわしくかつては国際港みなと横浜そばの関内にありましたが、この地に居を移し泉区唯一の総合病院として地域に生まれ、今年で25年になります。この地の歴史は浅いものの、病院ルーツをたどれば幕末1863年(文久3年)に



山下町の外人居留地に開設された Yokohama Public Hospital になります。長い歴史のなかで場所と名称は変わりましたが、地域医療に尽くすという精神は連綿と受け継がれて参りました。過去には院長をはじめ順天堂大学からの医師比率が多い病院でしたが、北島政樹先生(45回)が長く理事をお務めになり、1997年に掛川暉夫先生(33回)が院長就任以後は外科に引き続き整形外科、放射線診断科が慶應からの教室人事で運営されていきます。内科系診療科は横浜市大、昭和大学、北里大などで、その他東邦大、東海大など多くの大学のお世話になっております。

私は2年前に東京歯科大学市川総合病院院長を退任し、国際親善総合病院に院長補佐として入職し、村井勝前院長のお手伝いぶさに見て参りました。病院規模はハード、ソフトとも以前職の1/2で、運営母体も異なるので一概に同列には論じられませんが、地域の中核病院という立ち位置は共通で、医療安全管理、感染制御などのインフラ整備や、病診連携、チーム医療などの診療形態には、前職での経験をそのまま生かすことができます。

平成27年4月1日付けで医療法人社団 幸隆会 多摩丘陵病院の院長に就任致しました。遡れば昭和55年国立埼玉病院へのチーフ出張を経て、昭和58年以降、藤田保健衛生大学に8年半、慶應義塾大学に14年半、東京医科大学に8年半と約31年間、一貫して大学病院に勤務して参りましたが、この度初めて民間病院に勤務することになりました。不慣れなため戸惑うこともありますが、この規模の病院ならではの細かい医療を展開できるのではないかとこの期待を持って参っています。多摩丘陵病院は昭和57年に開設してから様々な変革を経て、本年で丸33年目を迎えます。

先々代の院長であった同期生の今井達郎先生が残念ながら昨年急逝され、その後、大先輩である掛川暉夫先生が院長となられました。今年理事長に就任されたため、私が第5代の院長になりました。奇しくも平成19年7月30日発行の『刀林』第89号の第1面に今井先生の多摩丘陵病院院長就任挨拶と掛川先生の国際親善総合病院院長退任挨拶が同時に掲載されており、深い因縁を感じます。当院は内科、外科・消化器外科、整形外科、脳神経外科、眼科、泌尿器科、婦人科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、歯科、などの診療科目を標榜し、一般病棟144床、地域包括ケア病棟52床、療養型病棟44床、回復期リハビリテーション

病棟76床の計316床の病床を有しています。開設以来、「生きる力を支え合い、ぬくもりのある医療と看護を提供する」ことを理念として、地域に密着し住民に信頼される病院を目指して参りました。二次救急指定病院の立場で急性期対応を積極的に行うと同時に、リハビリテーションを中心とする慢性期治療、訪問診療、さらには人間ドックによる

予防医学まで幅広い方面の医療ニーズに応じております。昨年には、医療・介護一体化法などの変化に対応して、地域包括ケア病棟を開設し、二次救急からリハビリテーションまでのシームレスな医療をさらに進めたいと思っております。外科は慶應から櫻川忠之(部長)、丸山正太郎、内 雄介、青山純也(研修医)の4名の常勤医を派遣してもらっており、教育出張病院としての責務を果たすべく診療に打ち込んでおりますが、さらに手術件数の増加に向けて努力したいと思っております。今後もケア・ミックス型病院としての基軸は堅持しつつ、さらに病院機能を充実、向上させ、安心できる良質な医療、優しい看護を提供するべく、職員一丸となって努力を重ねて参る所存ですので、刀林会の皆様におかれましては益々のご指導、ご支援の程お願い申し上げます。

## 多摩丘陵病院 院長就任



多摩丘陵病院 院長  
島津 元秀 (53回)



# 帝京大学 医学部外科学講座教授就任



神野 浩光 (66回)

2015年4月1日付けを持ちまして、帝京大学医学部外科学講座教授を拝命し、過日赴任いたしました。まずは就任に際しご尽力いただきました北島政樹名誉教授、池田正客員教授および北川雄光教授をはじめ、これまでご指導ご鞭撻頂いた刀林会の諸先生方に心より御礼申し上げます。

私は1987年に塾医学部を卒業し、慶應義塾大学病院でのフレッシュマンを経て、済生会中央病院および足利赤十字病院で初期外科研修を受けました。その後、慶應に帰室し、阿部令彦名誉教授が主催されていた一般・消化器外科に入局し、乳腺班に所属させていただきました。乳腺班では榎本耕治先生および藤原潔先生に乳癌診療の基本を教

立埼玉病院に出張させていただいた後、故久保田哲朗先生および北島政樹先生のご高配により米国紐育に留学させて頂き、乳癌のChemopreventionの研究に従事させていただきました。帰国後は国家公務員共済組合連合会立川病院にて再び臨床の研鑽を積ませていただきました。

その後、2001年より慶應の乳腺班のスタッフとして帰室し、池田正先生のご指導のもと、臨床試験について、プロトコル作成から結果の解釈までご指導頂きました。2006年に池田正先生が帝京大学へ転出されたからは乳腺班の責任者を拝命し、乳腺班のさらなる発展と後進の育成に邁進いたしました。

新病院棟が竣工しており、帝京大学医学部外科学講座の乳腺外科部門は池田正客員教授を初代教授として2006年に開講されました。2代目の教授として、池田正先生が築かれた乳腺外科のさらなる充実・発展を目指し、さらに地域の基幹病院としての役割も果たすべく、一層の研鑽に努める所存でございます。

帝京大学は1966年に創立され、来年2016年に創立50年を迎え、記念式典など様々な記念事業が予定されております。医学部は1971年に設立され、2009年に現在の現在の

# 国際医療福祉大学三田病院 外科消化器センター長、教授就任



池田 佳史 (67回)

平成26年4月1日付けで国際医療福祉大学三田病院の外科・消化器センター長・教授職を拝命しました。このたびの就任にあたり多大なるご支援を受け賜りました刀林会の諸先生方、特に国際医療福祉大学学長北島政樹先生、慶應義塾大学医学部一般消化器外科教授北川雄光先生に厚く御礼申し上げます。

下部消化管内視鏡2500例(治療内視鏡800例)を施行しています。消化器内科は東京医科歯科大学からの先生が主でいわゆる同門ではありませんが、外科・内科の緻密な連携が形成され非常に働きやすい環境です。また、外科6名は、私のほかに首村智久(72回)・肝胆膵、似島修弘(77回)・下部)、田中求(84回)・上部)、松井信平(87回)・下部)と加藤重裕ともにお互い協力し最高のチーム医療を実践できるように北島学長の

科に所属し、高見博先生(49回)より内分分泌外科を学び甲状腺の内視鏡手術を考案するなどして外科医としての視野を広くさせて頂きました。

私は1988年慶應義塾大学卒業後、済生会中央病院・足利赤十字病院のフレマン出張後に、安藤暢敏先生(50回)を班長とする食道班に所属しました。そこでどんな合併症にも立ち向かえる術後管理を勉強させて頂きました。その後、福生病院にチーフ出張し、諸角英先生(53回)の基で外科手術の基本から応用を学びました。縁あって、1998年より帝京大学外

最後になりましたが、今後とも刀林会の皆様の暖かいご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

VGX-NAT (A5 1/2) 2015年5月作成



献血ウエノグロブリンIH5% 静注 0.5g/10mL・1g/20mL・2.5g/50mL  
Venoglobulin IH5% i.v. 0.5g/10mL・1g/20mL・2.5g/50mL・5g/100mL・10g/200mL

献血ウエノグロブリンIH5% 静注用 500単位 1500単位  
Neuart i.v. 500units・1500units

※効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT<sub>3</sub> 受容体拮抗製剤 創薬、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

プロキシ 静注 0.75mg Aloxi. i.v. injection 0.75mg  
プロキシ 点滴静注用バッグ 0.75mg Aloxi. i.v. infusion bag 0.75mg

大鵬薬品工業株式会社  
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27  
TEL. 03-2620-4527 FAX. 03-2620-2451  
http://www.taiho.co.jp/

# 帝京大学医学部 外科学講座主任教授を退任して



池田 正 (53回)

平成27年3月31日付で約9年半勤めた帝京大学医学部外科学講座を無事退任させて戴きました。例えば、帝京大学に赴任するときに刀林で挨拶をしたような記憶がありますが、時の経つのは早いものです。帝京大学外科学講座に關しては、少し前の「刀林第104号」に川村先生が紹介していますので、ご参照下さい。帝京は慶應と同じく大教室制であり、外科学講座の中に上部消化管、下部消化管、肝胆膵、呼吸器、乳腺、小児、血管などの各部門が含まれています。私は乳腺担当の教授でしたが、スタッフは若い先生を含めても常時3人程度であり、大変多忙でした。そのような中でも平成19年には日本乳癌学会を主催させて戴き、平成22年からは日本

乳癌学会理事長も務めさせて戴きました。ことに乳癌学会を主催したときには刀林会の先生方には大変お世話になりました。同門の有難さを含め北島教授、北川教授には陰に陽に大変お世話になりました。最近の大学、大病院では不祥事も多々あり、世間を賑わしています。診療、教育、研究のためには安全がすべての前提になることは論を待ちません。私は最後、副院長も務めさせて戴きましたが、幸いにも任期中は大過なく過ごすことができました。今後は、呼吸器外科の川村教授(61回)に主任教授を引き継ぎました。乳腺担当の教授としては慶應の准教授であった神野先生(66回)に来て戴きましたので全く心残りはありません。た

だ、医療の分野では専門医制度改革が進み、教育制度も臨床実習増加のため急速にカリキュラム改訂が進んでいます。さらに医療安全、患者サービスなど種々の診療関連事項の改定がなされ、ただでさえ忙しい外科医が日業業務に忙殺されています。刀林会員は帝京大学外科学講座の中ではまだ少数派ではありますが、川村先生、神野先生をはじめとした刀林会の先生方には、また新たな視点とバイタリティーをもって牽引していつて戴きたいと期待しています。

卒後41年ともなると、今まで先輩、同僚、後輩などたくさんの方々にお世話になりました。乳腺を始めたときは阿部教授、榎本講師に大変お世話になりました。その他名前を挙げるときりがありません。今後は北里研究所病院、帝京大学、慶應大学、多摩丘陵病院において、若い先生と共にもう少し乳腺の臨床を続けたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 病院紹介

# 埼玉医科大学 国際医療センター



副院長 心臓病センター長  
小児心臓外科教授  
鈴木 孝明 (62回)

埼玉医科大学国際医療センターは、国際競争力のあつる世界最高水準の病院作りをめざし、がん、心臓病に對する高度専門医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供することを使命として平成19年4月に開設されました。3kmほど離れた埼玉医科大学病院とは兄弟のような関係で、二つの病院で一つのメディカルセ

ンターを形成しています。それぞれ得意な専門領域を分担していますが、当院は「がん」、「心臓病」、そして「脳卒中を含めた救命救急」の治療を得意とする病院です。刀林会員は加藤木利行保健医療学部長(52回)、私(62回)、保土田健太郎(77回)の小児心臓外科3人と、宮澤光男消化器外科教授(64回)が在籍するのみですが、

三四会員となりますと柵橋紀夫神経内科教授(53回)、岩永史郎心臓内科教授(64回)、小山正史泌尿器腫瘍科教授(72回)、西部伸一麻酔科教授(65回)をはじめとして15名が在籍しております。

当院は、従来の病院、特に大学病院の概念や枠組みに全くとらわれずに、「患者中心の医療」を具現化する

ることをめざしています。病院のエントランスホールは今までの病院のイメージとは異なるホスピタリティーで患者を迎えます。開院以来、安心で安全な満足度の高い、質の高い医療をめざして来ましたが、その成果として今年の2月に世界基準の病院機能評価であるJCI (Joint Commission International) の認定病院となりました。日本の大学病院としては初めての認定となります。

国際医療センターの構成は、包括的がんセンター390床、心臓病センター165床、救命救急センター145床の合計700床となっており、各々のセンター内では各診療科が内科外科を問わず協力して治療にあたる体制がとられています。手術室は16室が常に稼働しており、そのうち2室はハイブリッド手術室です。月間の手術数は550

600例をこなしております。集中治療用のベッドが多いのが特徴で、特定集中治療室管理料を算定しているICUは2箇所、24床、救命救急入院料を算定しているICUとCCUが4箇所、50床、ハイケアユニット入院医療管理料を算定しているHCUが2箇所、22床と、数字が示す通り高度な急性期医療を行うために特化した施設と言えます。包括的がんセンターで扱うがん手術の多くが、全国で20位以内に入る症例数を誇っています。心臓病センターの手術数は関東で2位、全国でも3位のハイブリッド手術センターです。心臓移植実施施設として多くの補助人工心臓を装着しており、心臓移植も積極的に進めています。また不整脈に対する心筋焼灼は小児から成人まで行うことのできる数少ない施設であり、冠動脈疾患に対するカテーテル治療も大学病院では全国でトップクラスです。小児については日本でも有数の複雑心奇形の治療施設となっており、救命救急センターは、三次救急施設として認可されており、急性心臓血管センター、脳卒中センター、救急・外傷センターの大きな3本の柱があり、脳卒中センターでは全国でも上位に入る手術数とカテーテル治療数をこなしております。



このように埼玉医科大学国際医療センターは急性期重症疾患を対象として、従来の縦割りの診療科毎の診療ではなく横の繋がりを重視した治療を行なうという基本を貫いている新しいタイプの大学病院と言えます。

病院紹介

山王病院



山王病院  
副院長・外科部長  
菊池 潔 (56回)

1937年(昭和12年)に山王病院は創設され、本年で78年になります。2000年に現在の場所に移転新築されました。当院はプライベートホスピタルの先駆けとして、アメニティの充実に重点が置かれております。もともと産科の病院として有名ではありませんが、21世紀の医療を担う病院として医師の充実、医療の高度化・近代化に対応すべき機器の充足を図り、総合病院として変化を



り、こちらでは検診を主体とした予防医学センター、人工透析センター、血管センター、脳血管センターがござ

寺本龍生先生(47回)、奥田 誠先生(52回)、菊池 潔(56回)、松井 哲先生(65回)、辻塚一幸先生(69回)です。この内奥田、菊池、辻塚は現在も勤務しております。

当院では青山一丁目にある慶應義塾大学病院が非常に近いので、多くの患者の治療で大変お世話になっております。今後ご迷惑をおかけすることと思いが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

病院紹介

伊勢原協同病院



伊勢原協同病院  
乳腺外科部長  
飯尾 宏 (65回)

J A 神奈川県厚生連伊勢原協同病院は故米山桂八先生(38回)の後を継いだ別所隆前病院長(50回)在任中から始まった新病院構想が、平成26年8月1日に新築移転して診療を開始しました。現病棟は一般病床310床に加えて回復期病床43床と新たな独立棟として14床の緩和ケア病棟を備え、急性期医療からがん終末期医療までをカバーし

腹部手術や鼠径ヘルニア等における腹腔鏡下手術化に努め、治療経過も安定してきました。また、人間ドック等を展開する保健福祉センターに中安邦夫センター長(61回)、横山剛義(72回)がいます。



# 第32回日本小児外科学会 秋季シンポジウム



さいたま市立病院  
小児外科部長  
中野 美和子 (54回相当)

このたび、来年、2016年の第32回日本小児外科学会秋季シンポジウムを開催させていただきますことになりました。

日本小児外科学会の学術集会は年2回あり、春の総会は、3日間で小児外科のさまざまな討論を行う場ですが、秋の会はひとつのテーマを決め討論します。

また、秋季シンポジウムに合わせ、小児外科の各種研究会をPSJMと称して合同開催することが恒例となつていきます。

これは、当院の元院長である遠藤昌夫先生が、2001年に「小児外科栄養」をテーマに第17回秋季シンポジウムを開催されたときから始めたこととで、2016年は、第36回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会(会長・静岡県立こども病院漆原直人先生)、第21回日本小児外科漢方研究会(会長・新潟大学窪田正幸教授)、第46回日本小児外科代謝研究会(会長・浜松医科大学小児外科川原史好先生)、第73回直腸肛門奇形研究会(会長・東京都立小児総合医療センター広部誠一先生)、

第27回日本小児呼吸器外科研究会(会長・東北大学仁尾正記教授)を2016年10月27日から29日まで、さいたま市の大宮ソニックシティで開催する予定で、秋季シンポジウムは最終日の29日です。

秋季シンポジウムのテーマは、基本的には学会理事会で決められるのですが、直近では、杏林大学藤澤融司教授が「昨年会長の時は「小児救急医療―外傷・虐待」で、昨年は、「倫理」がテーマでした。今回のテーマは、「トランジション(小児患者の成人医療への移行)」です。

小児外科疾患には、小児期に治療してほぼ完治し後に問題を残さないもの、ある程度治療を継続しながら成長し、成人に至った時点で終了してよいもの、成人以降も治療が必要なものがあります。成人になることが少なかった難治疾患の生存率が上がっている現在、以前はわからなかった後期の問題が出てきています。このような疾患の成人以降の治療・フォローアップをどうするべき

かが、現在大きな問題となつていきます。これを担当するのは小児外科医なのか、成人外科医・内科医なのか。治療が必要な際の施設は、小児病院なのか成人の病院なのか。疾患によっては、成人科が全く経験しない先天性疾患も少なくありません。その際、どのように成人科医に知識を持つていただくのか。また、小児外科患者は、疾患をもちながら成長するため、時として心理的にも問題が出て来ることもあります。このようなさまざまな問題を、主な疾患ごとに考え、成人側からの意見、小児外科以外の小児疾患での経験、行政側の方針など、各方面からのアプローチも交え、多角的に討論する場を作りたいと考えています。ぜひ、みなさまのご意見もいただきたいと存じます。

このような身に余る名誉ある会を主催させていただくことに感謝していますが、一般病院の小さなチームでの主催は、責任が重すぎると感じるころもありました。なにとぞご協力をよろしくお願いする次第です。

# 第70回日本大腸肛門病学会 学術集会



藤田保健衛生大学  
下部消化管外科教授  
前田 耕太郎 (58回)

第70回日本大腸肛門病学会学術集会を2015年11月13日(金)、14日(土)に名古屋観光ホテルとヒルトン名古屋で開催させていただきますことになりました。これも私の恩師であられた

す小平進、寺本龍生先生ら刀林会の先輩方、仲間が大腸肛門病領域でこれまで活躍してきた結果だと感謝いたしております。名古屋での開催は前任の丸田守人名誉教授の2003年の学

術集会以来12年ぶりの総会です。第70回は区切りの総会として、我が国の大腸肛門病領域がさらに世界に飛躍すべくテーマを「グローバルイノベーションと本邦のオリジナリティー―Next

# step for the future

さらに若手医師のための教育セッション、男女共同参加を目指した女性医師の活躍を主眼としたセッション、医師のみでなく他職種の参加者も勉強できるような主題も計画しています。また14日の金曜日には会員一人一人が情報交換や交流を行う場を提供するために全員懇親会を開催し、「名古屋メシとワイン」を肴に交流を深めていただきたいと思います。

「参加して勉強になり楽しい」学術集会になりますように、教室員一同誠意準備しております。多くの慶應の先生方のご発表ならびにご参加をお待ち申し上げます。

# 第7回日本腹腔鏡下ヘルニア手術 手技研究集会開催にあたって



慶應義塾大学医学部  
外科(一般・消化器)  
和田 則仁 (74回)

この度、第7回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会を、9月19日に六本木の東京ミッドタウンで開催させていただきますことになりました。

土曜日の一日、ひとつの会場でラパヘルが無編集手術ビデオを見ながら総合討論するという形式で行われることを特徴としています。

本会の趣旨であるラパヘルの安全な普及啓発を念頭に、難解な膜解剖の議論に終始するのではなく、これからラパヘルを始めようという初心者や、手技のステップアップを目指す参加

者にとつて有益な情報が得られる場にしたとを考えています。今回のテーマは「至適距離層を開き繋げるラパヘル」といたしました。至適距離層はどこにあり、そのランドマークは何なのか、また異なる剥離層をどのように繋げていくのがあるのか、このような視点で勉強をしたいと考えています。

今回は2つの新たな試みを準備しております。ひとつは招請講演として、Andrew Bowker 先生をお招きしております。お一人7000例ものラパヘルを手掛けてこられた外科医で、美しい手術ビデオをふんだんに供覧していただく予定となっております。一緒に招き寄せている奥様のGEM先生には日帰り手術

術のための麻酔についてご講演いただきましたと思います。また、研究会の後に参加者のための懇親の場を用意いたしました。東京ミッドタウンにありますビルボードライブ東京に、アメリカからジャズ・コーラス・グループのマンハッタン・トランスファアを招き、ステージ・フロアを貸し切つてのライブコンサートを企画しております。先着100名様までとなりますが、美しいヴォーカル・ハーモニーと、自慢の食事を堪能していただく予定です。

刀林会の先生方にも、是非、初秋のひとつときを、ラパヘルの勉強とともに六本木の夜も楽しんでいただければ幸いです。

帰室報告



藤田保健衛生大学  
医学部脳神経外科  
大場 茂生 (78回)

2011年4月より慶應義塾大学医学部脳神経外科吉田一成教授、藤田保健衛生大学医学部脳神経外科廣瀬雄一教授のお力添えにより、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 脳神経外科 Russell O. Pieper 教授のもとに留学させて頂き、つい先日の3月末に帰国いたしました。

UCSF はアメリカ西海岸カリフォルニア州サンフランシスコ市に存在しており、カリフォルニア大学群の1校で、主に医学分野に特化したキャンパスであります。私が所属しましたのは脳神経外科の Brain Tumor Research Center (BTRC) であり、海の近くのミッションベイキャンパスに存在します。ミッションベイキャンパスは新しいキャンパスで、私が滞在した4年の間にも病院や研究棟が次々建設されていきました。BTRCの中には大小様々なラボが存在しており、私が所属した Pieper lab. は比較的小さいラボで P1 を除くと

スドクは2、4人程度で構成されています。小規模なラボゆえに P1 の眼が行き届いており、週に1、2回のマンツーマンのディスカッションを行いつつ研究をすすめていきました。研究内容としては、脳腫瘍の中では頻度が高く、非常に悪性で予後不良である神経膠腫の発生と化学療法に対する感受性をテーマとして行っていました。生活面では、日本とは異なる文化には戸惑い、時には圧倒され、時にはその合理性に感心させられながら、家族(妻、娘)3人で楽しく充実した日々を過ごしました。

4月からは藤田保健衛生大学医学部脳神経外科にて廣瀬雄一教授のご指導の下、臨床と研究とに充実した毎日を送っていました。両教授をはじめ沢山の方々にご支援いただきました留学での成果をなんとか還元できればと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

帰室報告



稲城市立病院 外科  
平岩 訓彦 (78回)

私は2012年6月から2年10か月間、カナダ・バンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学に留学して参りました。同大学では Dr. van-

Eeden が主催する研究室に在籍し、肺障害の研究に従事させていただきました。同研究室は北米でも有数の productive な研究室です。仮説に基づいて結果

を出し、論文を数多く発表する過程を目の当たりにすることができ、大変な刺激を受けることができました。病理学の大家 Dr. Hogg

から公私にわたって直接ご指導をいただくことも多く、恵まれた環境は周囲のカナダ人研究者から羨ましがられるほどでした。さらには、研究のみでなく同大学の著名な外科医達と交流する機会もあり、かけがえのない思い出をつくることができました。

帰室報告



慶応義塾大学医学部  
外科 (小児外科)  
山田 洋平 (81回)

私は2009年から2014年まで、米国ボストンの Massachusetts General Hospital の Transplant Surgery へ研究及び臨床留学して参りました。兼ねてから臓器移植

科医人生の中で大きな糧となることと思います。研究ではカニクイザルの腎移植モデルを用いて血液幹細胞の mixed chimera を作成することによる免疫寛容誘導に成功し、更

には誘導した寛容を破綻させるメカニズムを解明し、American Journal of Transplantation に論文報告致しました。

後半の2012年からはクリニカルフェローとして数多くの肝・腎・膵・膵島

移植の術者を経験させて頂きました。その中でも、やはりドナーの臓器摘出には日本人として思う所が数多くございました。薬物乱用による多くの若い命が脳死として失われている点、心停止後臓器摘出現場の摘出側医師と患者家族との微妙な境界線に違和感を覚えたことを記憶しております。

印象的だったのは、落馬による脳挫傷から脳死と診断された22歳女性の臓器摘出現場でありました。本人の上げたいと存じます。

最後に、サイエンスから哲学まで、非常に充実した5年間を送ることができた事を MGH 移植外科の河合達郎先生、および留学の機会を与えてくださった小児外科の皆様へ深く感謝申し上げます。

上げたいと存じます。



留学報告

サンタモニカ留学記



小野 滋司 (81回)

一般・消化器外科、北川雄光教授のご高配を賜り、2013年4月より2年間、米国サンタモニカにあるジョン・ウエイン癌研究所に基礎研究留学させていただきました。

サンタモニカは、ロサンゼルス郡の西部に位置し、ビーチ沿いで潮風が吹きこむため、カリフォルニア南部に位置してはいますが、湿度も適度で、涼しく快適に過ごすことができました。

研究所は、サンタモニカビーチから車で10分という、何とも贅沢な場所に位置しています。ジョン・ウエイン癌研究所は、悪性黒色腫、乳癌のセンチネルリンパ節ナビゲーション手術を始めたことで世界的に有名な、セントジョーンズ病院の付属施設です。これまで、特に悪性黒色腫の腫瘍分子生物学分野において、数多くの実績を誇っています。研究内容は、腫瘍におけるエピジェネティックな変化を最も重要なターゲットとしており、また、次世代シーケンサーも2台所有し、非常にパワフルな研究所です。優秀で人柄の良いフェローが世界各地から集まっております、皆大変よく勉強しています。日々、お互いの実験について議論し、励ましあえる、素晴らしい研究環境です。

私は2013年4月からカナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学セントポール病院のCentre for Heat Lung Innovation (旧称: James Hogg Research Centre) に研究留学をさせていただきました。バンクーバーはカナダの西海岸にある都市でありながら、海と山に囲まれ、自然を身近に感じられる環境は「世界で最も住みやすい都市」に選ばれたこともあり、夏は涼しく乾燥しているため過ごしやすく、冬は雨季となりますがカナダ国内では最も温暖な気候です。日本食や日本の文化を愛する親戚が多い印象で、人種差別を感じたことは一度もありません。

私の所属する研究所は肺、心臓、血管のリサーチを中心としており、消化器外科医の留学先としては異色かもしれませんが、北川雄光教授をはじめ、慶應義塾大学外科から20年以上に渡って継続してポストドクを受け入れている由緒ある研究所です。私の所属する研

究グループは「喫煙・大気汚染・肺炎などの肺の炎症が、心血管系イベントを増加させる」という現象に注目しており、その中で「血漿中の肺サーファクタントプロテインD (SPD) の値が心血管イベントによる死亡の独立した予測因子である」ことを臨床データで明らかにしています。私はその論文を裏付けるために、SPDノックアウトマウスと動脈硬化モデルApoEノックアウトマウスを交配させて作製したダブルノックアウトマウスを使用し、そのメカニズムを解析するプロジェクトを担当しています。他にもマウスを用いた3つの動物実験のプロジェクトで「外科医」としてマイクロを含めた手術を担当しています。

私のボスがよく使うフレーズは「What is your hypothesis?」「Don't go fishing in the dark」や「網羅的解析が盛んとなっている昨今、仮説がいかに大切であるかを教わりました。他にもグラントの書き方や他の研究室とのコラボの大切さなど、研究者として必要なことを一通り学べた気がします。カナダで1年半のフェロシップを取って得たことは貧乏留学生生活がわずかながら改善することができたことだけではない、自信にもなりました。語学力は思いのほか伸びずに反省しておりますが、家族と多くの時間を過ごすことができ、特にもう少し3歳となる長男の成長を近くで見守ることができ、良かったです。妻には慣れない異国の地での育児と節約生活を強要して負担をかけ

ましたが、留学生生活を支えてもらって感謝しています。この7月からは伊勢原協同病院でお世話になることになりました。4月からの勤務に間に合わず、ご迷惑をおかけしていることをお詫び申し上げます。末筆ながら、留学に際してご高配、ご指導をいただきました北川雄光教授ならびに刀林会の諸先輩方、また学位取得にあたりご尽力いただきました竹内裕也准教授に深く感謝をいたします。



私は、血中マイクロRNA測定のアッセイに関する研究に携わらせていただき、その有用性を報告させていただきました。また、悪性黒色腫の発生・進行におけるマイクロ

RNAの機能を解明するため、他施設との共同実験にも携わることができました。私生活におきましても、家族と過ごす時間が増え、とても良い経験となりました。「ヨーロッパにはカルチャーがある」と言われるように、広大な国立公園の規模には心を打たれるものがありました。国立公園のほとんどが西海岸に位置していることもあり、その多くを訪れることができたことは、かけがえのない思い出となりました。また、第2子をセントジョーンズ病院で授かったことも、この上ない幸せな出来事となりました。この米国での貴重な経験を糧とし、今後の診療に励みたいと考えています。

最後にになりましたが、留学の機会を与えてくださいました北川教授をはじめ、刀林会の諸先生方に、心より厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、留学の機会を与えてくださいました北川教授をはじめ、刀林会の諸先生方に、心より厚く御礼申し上げます。



留学報告

バンクーバー留学のご報告



平野 佑樹 (83回)

必要となることを一通り学べた気がしますが、カナダで1年半のフェロシップを取って得たことは貧乏留学生生活がわずかながら改善することができたことだけではない、自信にもなりました。語学力は思いのほか伸びずに反省しておりますが、家族と多くの時間を過ごすことができ、特にもう少し3歳となる長男の成長を近くで見守ることができ、良かったです。妻には慣れない異国の地での育児と節約生活を強要して負担をかけ

ましたが、留学生生活を支えてもらって感謝しています。この7月からは伊勢原協同病院でお世話になることになりました。4月からの勤務に間に合わず、ご迷惑をおかけしていることをお詫び申し上げます。末筆ながら、留学に際してご高配、ご指導をいただきました北川雄光教授ならびに刀林会の諸先輩方、また学位取得にあたりご尽力いただきました竹内裕也准教授に深く感謝をいたします。

# Japan Endovascular

## Treatment conference 2015

### 優秀演題賞を受賞して

慶應義塾大学医学部  
外科 (一般・消化器)

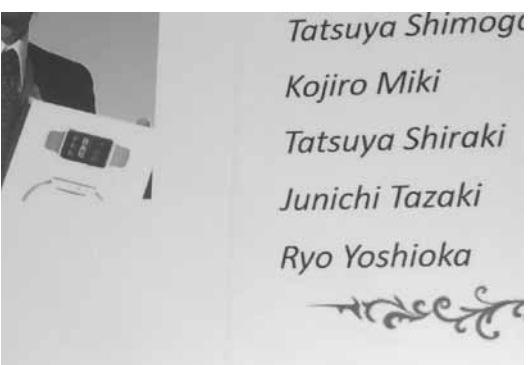
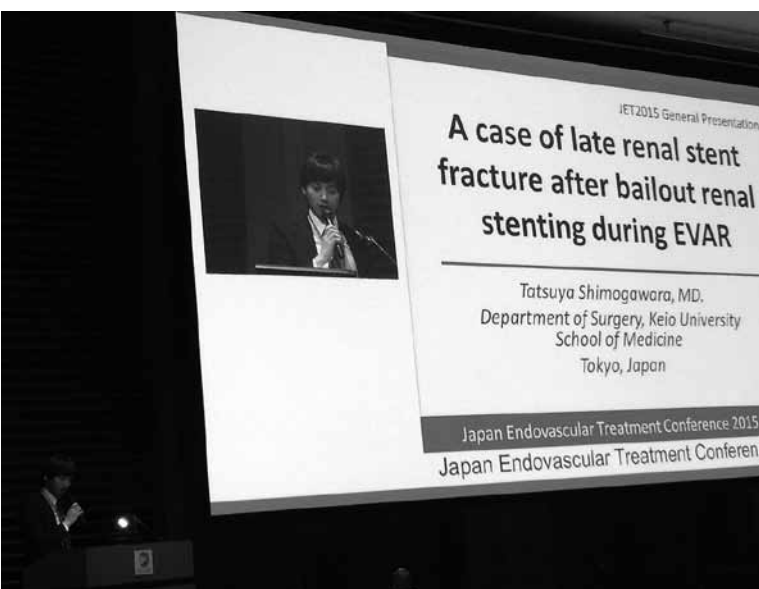
下河原 達也 (89回)

平成 27 年 2 月 20 日から 22 日にかけて、大阪で開催された Japan Endovascular Treatment Conference (JET) 2015 において、優秀演題賞を頂くことができました。今回の受賞は、多くの諸先輩方より御指導を頂いた賜物だと理解しております。北川雄

光教授、および日頃から直接御指導頂いております血管外科の諸先生方を含め、刀林会会員の皆様には深く感謝申し上げます。  
JET は、参加人数 2000 人以上の日本でも最大規模の血管内治療学会で、2009 年より毎年開催されています。循環器内科が主体ではありませんが、近年では血管外科、放射線科の参加も積極的にみられております。今回、初参加となりましたが、English Presentation Award Session 164 題中優秀演題賞は 8 題、かつ外科系からの唯一の選出となり、大変光栄に存じます。我々、一般・消化器外科血管班と放射線科は週に 1 回合同カンファレンスを英語で開催しており、その成果を感じ取ることができました。

さて、当科で扱う末梢血管疾患は、胸腔内・頭蓋内以外の全ての血管が対象となります。近年、末梢血管疾患に対する診断法や治療法の選択肢は極めて豊富になり、例えば、大動脈瘤や末梢動脈疾患に対する治療法には、従来の血管置換術やバイパス術に加えて、カテーテルを用いた血管内治療が増加傾向にあり、治療戦略が大きく変化しつつあります。しかし、血管内治療は、その長期的な治療成績が未だ十分に評価されていないのが現状であり、今後も詳細な検討が必要です。また、日本国内における血管内治療の多くが循環器内科主体で行われているという現状もあり、我々血管外科医が一致団結して、情報発信をしていくことの必要性を強く感じております。

最後に、これまで以上に臨床、研究双方に積極的に取り組んでいく所存です。刀林会の先生方のおかげにもマラソンを走られている先生も多くいらつしやると思えます。しかしランニングは決して安全なスポーツではありません。東京マラソンでも過去 9 回開催された中で 7 件の心肺停止が発生しております。幸い適切な初期対応で全例蘇生に成功し社会復帰を果たしております。



皆様「ランニングドクター」という名前はご存知でしょうか。ランニングドクター (RD) とは一般のランナーとともにコース上を走り、コース内から医療監視 (パトロール) を行っている医師のことです。万が一走行中のランナーに生命に危険な状態が発症した



岡本信彦先生 (76 回) と筆者 (右側)

# エッセー

## 東京マラソンランニングドクター



東京マラソンランニング  
ドクター統括責任者

堀口クリニック

堀口 速史 (75 回相当)

2007 年に始まり来年 10 回目を迎える東京マラソンは、3 万 6 千人のランナーが都心を駆け抜ける我が国最大の市民マラソン大会として定着しています。またこの大会の開催が昨今のランニングブームのきっかけに結びついているといっても過言ではありません。刀林の会員の先生方の中にもマラソンを走られている先生も多くいらつしやると思えます。しかしランニングは決して安全なスポーツではありません。東京マラソンでも過去 9 回開催された中で 7 件の心肺停止が発生しております。幸い適切な初期対応で全例蘇生に成功し社会復帰を果たしております。

走れる走力を持ち合わせていなければならないからです。我々 RD がマラソン大会中に遭遇する病態は心肺停止、脱水症、低体温症、熱中症、低血糖症などです。それらに対する知識や治療技術を持ち合わせていることはもちろんのこと、さらに最近ではテロを想定した大規模災害発生時の外傷処置・対応についても最新の知見を学び知識を共有しています。またコース上ではランナーの息づかい、汗の出方、顔色、走り方などを観察し周囲を気にしながら時には後ろを振り返りつつ、さらには対向車線走るランナーにも眼を光らせながら耳からの情報も逃がさずに走っています。そして我々の任務は、来る 2020 年東京オリンピックに向けて全国のマラソン大会運営上の安全面でのモデルケースとして注目をされています。

東京マラソンは世界一安全で安心なマラソン大会を目指しています。大会当日はコース上に医師が一緒に走っているという安心感を一般ランナーに与えつつ、楽しいマラソン大会となることを願ってやみません。



追 悼

故 末 舛 恵 一 元 刀 林 会 理 事 長

を 偲 ん で



慶應義塾大学医学部 外科 (呼吸器) 教授

浅村 尚生 (62回)

三四会長、刀林会理事長をお勤めになった末舛恵一先生が、東京都済生会中央病院で、2015年1月29日に亡くなられた(享年88歳)。

末舛先生は、1949年に慶應義塾大学医学部を卒業になり(28回生)、足利赤十字病院勤務を経て、1962年国立がんセンターへ赴任された。国立がんセンターでは、石川七郎先生を補佐して肺癌グループをまとめ、黎明期の肺癌学の進歩に大きな足跡を残された。病院長に続いて、1992年には総長に就任



▲末舛先生術中写真(1994年)

され、日本のがん研究全体の舵取り役を務められた。1994年に退官され名誉総長とされたが、さらに1997年には東京都済生会中央病院院長に就任され、2006年に退職されるまで、文字通り病院運営の最前線にお在りになった(退職後名誉院長)。最近では、病気療養中でいらつしやつたが、今年1月に入り肺炎を併発され、済生会中央病院に緊急入院、1月29日に永眠された。

末舛先生の特筆すべき能力は、ご自身優れた外科医ではあったが、まとめ役、番頭役としてのそれであり、グループの適任者が喜んで仕事が出来よう環境を整え、グループ全体としての業績が向上するよう舵取りをするという希有のものであったと思う。石川七郎先生が、創立間もない国がんに集められた肺がんグループ、石川スクールの先生方は、個性豊かな秀才ばかりで、それらの先生方の調整役をされたのが末舛先生であった。おそらく石川先生は、そこまでを考

えられて末舛先生を番頭役として呼ばれたのだと思う。この「石川スクール」が、黎明期の肺癌学勃興に残した足跡は大きく、残念だが、その後を継いだ我々は、それを上回る成果を残せてはいない。肺癌病理の下里幸雄先生は、肺癌の形態形成の過程を病理学的に解明して肺癌診断学の理論的基礎を築いた。池田茂人先生によるフレキシブルファイバースコープ、気管支鏡診断学は、どの教科書にも登場する国がんの宝である。肺臓外科では、成毛詔夫先生の発表したリンパ節マッ

プ(成毛マップ)が、現在でも形を変えながらも国際標準として使用されている。末舛先生は、こういった先生方の仕事を後押しされて国がんの「肺癌学」を世界的なレベルに引き上げたが、その一方で、単なる仲良しグループではなかつた研究者間の調整に、大変な苦労をされたのではないかとと思う。しかし、これこそ真の切磋琢磨なのではないかろうか? 当時の苦労話をにこやかに語られる先生は、誠に愉快そうであった。誌面には書き難いような石川先生のエピソードなど、さすがに面食らうようなお話も沢山あったが、末舛先生にとって人生最良の時代だったのではないかとと思う。私が国がんで始めて先生にお会いしてから、30年近い歳月が流れたが、私にとつて末舛先生は、今も変わらない肺臓外科の師匠である。「此処に骨を埋める覚悟でやれ、慶應の一員としてひと味違ふところを見せろ」という先生の最初のお言葉を忘れたことはない。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

末舛恵一先生を偲ぶ会のお知らせ

- 1. 日時 平成 27 年 7 月 6 日 (月) 17 時 ~ 19 時
※ 開催時間中 (17 ~ 19 時) は会場への入退場には制限はございません。お時間が限られている方もご献花いただけます。
2. 場所 東京プリンスホテル 鳳凰の間
東京都港区芝公園三丁目 3 番 1 号 03-3432-1111
3. 会費 一万円

発起人

国立がん研究センター 理事長 堀田知光
東京都済生会中央病院 院長 高木 誠

- ※ 勝手ながらご香典、ご供花、ご供物は固くご辞退申し上げます
※ ご来臨の節は平服にてお越しくださいますようお願い申し上げます
※ お手数ながらご来臨につきまして下記偲ぶ会事務局までファックス又はメールでご連絡をくださいますようお願い申し上げます

末舛恵一先生を偲ぶ会 事務局 東京都済生会中央病院 総務課
Fax.03-3457-7949 E-mail soumu@saichu.jp
Tel. 03-3451-8118 (ダイヤルイン) 03-3451-8211 (代表)

診療体系グループ紹介

肝胆膵・移植班



慶應義塾大学医学部 外科 (一般・消化器外科)

板野 理 (71回)

肝胆膵・移植班(胆道班)は現在、6名のスタッフ(板野理(71回)、篠田昌宏(73回)、北郷実(74回)、阿部雄太(77回)、日比泰造(77回)、八木洋(77回))で構成され、板野が班長として班全体の臨床、研究、教育を統括するとともに、臨床では板野が肝・胆道、北郷が膵臓、篠田が移植の各領域の責任者として活動する形をとっています。

中です。また、腹腔鏡下肝切除、血管合併切除を含んだ肝門部胆管癌手術などは、大学から関連病院に手術支援に伺ったり、紹介をいただいたりしながら、プロジェクトとしてお互いの技術、成績の向上に取り組んでいます。

手術症例はこの数年、すべの領域で右肩上がりに増加し、総数が2014年で342例(↑2013年321例↑2012年262例)、肝切除が93例(↑77例↑78例)、膵切除64例(↑52例↑33例)、肝移植が脳死・生体を合わせて21例(↑9例↑14例)、肝胆膵外科学会の高難度手術が117例(↑85例↑83例)です。特に最近刀林会の先生方から、たくさんのご紹介をいただき大変感謝しております。

基礎的研究では、ナノ粒子と外部エネルギーを用いたターゲット治療法の開発、ZnO/HI 肝癌動物モデルの作成、担癌ブタモデルの作成と臨床に即した手術、EGFR 治療の研究、核内タンパク HMGBI に着目した肝不全治療の開発、脱細胞化臓器骨格を用いた再生医療の開発などを複数の学内外の施設と連携を取りながら行っています。

班の方向性を示すキャッチフレーズとして「全方位

これまで以上に臨床、研究、教育に一致団結して取り組んでいく所存です。引き続きご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひします。

病院長主導の共同研究を計画

で、刀林会の先生方には、

近況報告

78 回生



榊原記念病院 外科

山崎 真敬

私は心臓血管外科のチーフレジデントを終了した後に、Centre Cardio-thoracique de Monaco

に留学させていただきました。Vincent Dor 先生に左室形成術からワインに至るまで様々な外科的技法とヨーロッパ文化を教えてくださいました。帰国後は埼玉県立循環器・呼吸器病センターの6年間を経て、現在は四津良平名誉教授、志水秀行教授、高梨秀一郎客員教授の計らいで、榊原記念病院の外科スタッフとして勤務しております。

を受け入れており、いかなる理由があろうとも受け入れを断ることはありません。患者の状況が切迫しているときは当院来院後、数分以内に手術室に収容されます。全てがよどみなく進めば、極めてリスクの高い患者をも救命することが可能なことが、この病院に勤務しているときよくわかりました。

は、高梨秀一郎先生が作り上げたこのパッケージにあると思っております。「外科医は優秀であることは勿論のこと、各部門をまとめ上げる conductor としての能力に長け、かつ円滑なシステムを構築しなければなりません。」



藤田保健衛生大学病院 脳神経外科

安達 一英

平成22年度より藤田保健衛生大学病院脳神経外科にて勤務し、主に脳腫瘍と血管内治療に携わっております。慶応大学病院時代に河瀬名譽教授、吉田一成教授から学ばせていただきました。頭蓋底手術の知識と技術を生かせる症例も多く、充実した毎日をご過ごしております。また脳神経外科学会では野球大会が毎年開催されます。この大会はトーナメント方式で各地方会ごとに予選が生まれ、そこで優勝した病院が全国大

会に進出し優勝を争います。平成24年度は全国優勝を果たすことができました。今年も地方予選が6月から開始となり、和歌山で開催される全国大会に出場できるよう朝練とバツティングセンター通いも行っております。また愛知県は車で遊びに行くのにも渋滞が少なくうえに交通の便も良く、春の筍狩りから始まり冬のスキーまで家内と3人の子供と楽しんでおります。自分がここまでやってこられたのも、ご指導頂いた数々の先輩方と現職場の上司である廣瀬雄一教授並びに稲榊丈司准教授のお陰と感謝しています。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



慶應義塾大学医学部 外科 岡林 剛史

北川教授のご厚意により、留学から直接帰室し、早いもので三年が経過しました。病棟レジデントとの年齢差も10歳以上になり、残念ながらもはや若手とも言い難い状況になりました。近況は、腹腔鏡下大腸手術を中心に臨床に従事する傍ら、論文作成意欲が高いくのレジデントと格闘の日々です。責任を持つて地域の診療にあたる同期の活躍に刺激を受け、自分なりの少しでも医局の発展に貢献できればと考えています。

第27回日本内視鏡外科学会総会 第2回腹腔鏡下肝切除術国際コンセンサス会議 収支報告

会期：平成26年10月2日～4日 会場：マリオス（盛岡地域交流センター）他 会長：若林 剛（61回）

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 金額 (Amount). Includes categories like 参加費収入, 広告関係費, etc.

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 金額 (Amount). Includes categories like 事前準備費, 当日運営費, 事後処理費, etc.

第41回日本膵切研究会 決算報告書

会期：平成26年8月22日～23日 会場：東京ドームホテル 会長：松井淳一（58回）

Table with 2 columns: 収入の部 (Income) and 金額 (Amount). Includes items like 日本膵切研究会本部補助金, 参加費, etc.

Table with 2 columns: 支出の部 (Expenditure) and 金額 (Amount). Includes items like 事前準備費, ホームページ制作費, etc.

平成26年開催学会収支報告書（平成25年学会支援募金）

第 28 回日本小児救急医学会学術集会  
収支決算報告

会期：平成 26 年年 6 月 6 日 (金) ~ 7 日 (土)  
会場：パシフィコ横浜 アネックスホール  
会長：上野 滋 (57 回)

Table with 2 columns: 科目, 決算額. Rows include 1 参加登録費 (13,735,000), 2 懇親会費 (400,000), 3 抄録集販売 (576,000), 4 共催セミナー (4,104,000), 5 企業展示出展料 (2,700,000), 6 抄録集掲載広告料 (1,296,000), 7 書籍展示 (64,800), 8 助成金 (2,350,000), 9 寄付金 (3,365,000), 10 その他 (677). Total: 28,591,477.

Table with 2 columns: 科目, 決算額. Rows include 1 学会準備費 (3,086,994), 2 学会運営費 (20,793,105), 3 併設展示運営費 (1,157,944), 4 総合運営・進行管理費 (1,980,515), 5 大学事務局運営費 (564,461), 7 消費税 (1,008,458). Total: 28,591,477.

第 50 回日本移植学会総会  
収支決算報告

会期：平成 26 年 9 月 10 日 ~ 13 日  
会場：京王プラザホテル  
会長：島津元秀 (53 回)

Table with 2 columns: 科目, 決算額. Rows include I 参加費収入 (20,521,000), II 広告関係費 (2,019,600), III 商業展示出展料 (2,548,800), IV 共催セミナー (19,764,000), V 寄付金・助成金 (12,530,000), VI その他 (1,003,916). Total: 58,387,316.

Table with 2 columns: 科目, 決算額. Rows include I 事前準備関係費 (14,565,862), II 当日運営関係費 (39,331,255), III 事後処理費 (1,582,424), IV 運営委託業者業務管理費 (2,907,775), V 納税想定額準備金 (0). Total: 58,387,316.

※消費税は 8% で計上しております。

第 19 回日本脳腫瘍の外科学会  
収支報告

会期：平成 26 年 9 月 12 日 ~ 13 日  
会場：東京ドームホテル  
会長：吉田一成 (59 回)

Table with 2 columns: 科目, 決算額. Rows include 学会参加料収入 (5,015,025), セミナー共催金 (12,960,000), 機器展示出展料 (4,198,500), 広告掲載料 (741,000), 事務局補助金 (1,000,000), 協賛費 (1,620,000), 抄録集・教育セミナー料代 (99,000), 仮払金戻り (37,248), 利息 (486), 寄付金 (2,912,500). Total: 28,583,759.

Table with 2 columns: 科目, 決算額. Rows include 1. 事前準備費 (小計 1) (8,958,109), 2. 当日運営費 (小計 2) (19,610,474), 3. 事後処理費 (小計 3) (15,176). Total: 28,583,759.

慶應病院 外来 外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

北川 雄光  
篠田 昌宏  
板野 秀理  
尾原 秀明  
長谷川 博俊  
竹内 裕也

小児外科

黒田 達夫  
下島 直樹  
星野 健  
藤野 明浩  
山田 洋平  
藤野 明浩  
下島 直樹

心血管外科

吉武 明弘  
岡本 一真  
饗庭 了  
志水 秀彦  
工藤 樹彦  
加島 一郎

呼吸器外科

大塚 崇生  
浅村 尚生  
大塚 崇生  
神山 育男  
神山 育男  
浅村 尚生  
木下 智成

脳神経外科

大平 貴之  
佐々木 光  
三輪 点  
高橋 里史  
戸田 正博  
吉田 一成  
秋山 武紀  
堀口 崇点  
三輪 点  
堀口 崇点  
秋山 武紀  
高橋 里史

◎印 診療部長  
◎印 診療副部長

特殊外来 (午後)

月 食道・胃

高橋 常浩  
坂田 道生  
松原 健太郎  
阿部 雄太  
尾原 秀明  
長谷川 博俊  
高橋 麻衣子

火 肝臓・移植

関 朋子  
八木 洋  
渡辺 真純  
星野 健  
山田 洋平  
松原 健太郎  
林田 朋子

木 血管

関 朋子  
日比 泰造  
岡林 剛史  
鶴田 雅士  
篠田 昌宏  
竹内 裕也  
茂田 浩平

特殊外来 (午後)

肝臓・移植  
食道・胃  
ヘルニア  
呼吸器  
機能疾患(パーキンソン病) (月一回)

火 肝臓・移植

北郷 実  
竹内 裕也  
和田 則仁  
大塚 崇生  
高橋 常浩  
中村 理恵子  
古川 俊治  
神山 育男  
岡本 一真  
林田 哲  
高橋 麻衣子  
免疫療法(第3)

脳腫瘍補助療法 II  
小児移植

木 乳腺  
高橋 麻衣子  
尾原 秀明  
松原 健太郎  
山田 洋平  
小児移植  
脳・定位放射線(第1)

小児外科

小児外科  
松原 健太郎  
阿部 雄太  
尾原 秀明  
長谷川 博俊  
高橋 麻衣子

火 肝臓・移植

関 朋子  
八木 洋  
渡辺 真純  
星野 健  
山田 洋平  
松原 健太郎  
林田 朋子

木 血管

関 朋子  
日比 泰造  
岡林 剛史  
鶴田 雅士  
篠田 昌宏  
竹内 裕也  
茂田 浩平

特殊外来 (午後)

肝臓・移植  
食道・胃  
ヘルニア  
呼吸器  
機能疾患(パーキンソン病) (月一回)

火 肝臓・移植

北郷 実  
竹内 裕也  
和田 則仁  
大塚 崇生  
高橋 常浩  
中村 理恵子  
古川 俊治  
神山 育男  
岡本 一真  
林田 哲  
高橋 麻衣子  
免疫療法(第3)

脳腫瘍補助療法 II  
小児移植

訃報

- 野澤 達郎 君 (40回) 平成 26 年 7 月 21 日
- 荒川 亮 君 (26回) 平成 26 年 12 月 4 日
- 久保 脩 君 (39回) 平成 27 年 1 月 22 日
- 平井 秀幸 君 (33回) 平成 27 年 1 月 24 日
- 末舛 恵一 君 (28回) 平成 27 年 1 月 29 日
- 奥井 俊一 君 (57回) 平成 27 年 2 月 12 日
- 守屋 荒夫 君 (27回) 平成 27 年 2 月 22 日
- 石引 久弥 君 (35回) 平成 27 年 3 月 5 日
- 大西 英胤 君 (34回) 平成 27 年 3 月 12 日

編集後記

刀林新聞のバックナンバーが、PDFファイルで外科学教室のホームページ上から閲覧できるようになりました。最も古いものは昭和4年刊行の第4号が閲覧可能です。医学部新聞は、第2次大戦終了後4年あまり経った昭和24年3月に医学部新聞復刊第1号が発行されたのですが、これ以前に関しては資料も見当たらず不明です。そうなる現状を刀林会報(第4号)は、外科医局の歴史のみならず医学部の歴史を知る上でも貴重な資料であり、第5号の外科開局10周年記念号などは、現在も続く会員の近況報告はもとより、教授を囲んだ観劇会やら、旅行記、各科対抗スポーツ大会の結果、新入局員の運勢判断、外科医局の歌の作詞等、最後の特別付録の銀座案内まで、読後は懐の裏に当時の医学部の生活が垣間見えるようです。第105号の刊行にあたり、このよう貴重なバックナンバーが保存されていたことに感謝しつつ、第5号の行間に溢れる多士済々の先達諸兄のペン先に込めた情熱を忘れず、刀林の発展に尽力していきたいと思う次第です。(K, K)

編集委員

- 委員長 小澤 壯治
- 委員 佐藤 周三
- 磯部 陽
- 小澤 壯治
- 川村 雅文
- 古梶 清和
- 藤野 明浩
- 大塚 崇
- 下島 直樹
- 秋山 武紀
- 吉武 明弘
- 鶴田 雅士

刀林会ホームページ、ついに公開



慶應義塾大学医学部 外科(一般・消化器) 和田 則仁 (74回)

2月23日、ようやく刀林会のホームページを公開することができました。準備を始めてから1年を要した上に、内容もまだまだ貧弱ではありますが、一つひとつコンテンツを充実させていきたいと考えています。現在、注目のコンテンツは会誌「刀林」のバックナンバーです。最も古いものは昭和4年12月発行の第4号ですが、これは一見の価値があります。是非ご覧いただきたいと思えます。なお、ホームページにアクセスするには

IDとパスワードが必要ですが、会員の先生方には別途お知らせいたします。事務局でもお知らせいたしますのでお問い合わせください。刀林会の先生方のご意見を伺いながら、会員の皆様の役に立つサイトにしていきたいと存じます。引き続きご指導のほどお願い申し上げます。



astellas

キャンディン系抗真菌剤 (注射用ミカファンギナトリウム) 薬価基準収載

ファンガード点滴用 25mg, 50mg, 75mg

Funguard (商号: MCFG)

製造販売 アステラス製薬株式会社 東京都中央区日本橋本町2-5-1

2015年4月作成 90×120mm

中外製薬 CHUGAI

抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品(注1)

ゼロダ錠300 Xeloda カペシタシン錠

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF(注2)ヒト化モノクローナル抗体 生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品(注1)

アバスタン点滴静注用 100mg/4mL, 400mg/16mL

AVASTIN bevacizumab

注1) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること 注2) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

製造販売元 中外製薬株式会社 千103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

2015年5月作成